

第14回夏休みエコ絵画コンクール 表彰式特別講演

日時：2019年11月16日（土）
会場：千葉市生涯学習センター（千葉市中央区）
主催：千葉テレビ放送、一般財団法人千葉県環境財団
講演：NPO 法人環境技術支援ネットワーク理事長 樋口壯太郎様 代理
一般社団法人産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センター
主査 向中野裕子様
演題：なぜごみをへらすの？

今日は、樋口先生の代理で「なぜごみをへらすのか」という題で皆さんと一緒に考えていきたいと思います。樋口先生はごみの埋立地の研究を世界中に広げてきた先生です。今でもご指導をいただいています。

なぜごみをへらす必要があるのでしょうか。皆さんと一緒に考えていきましょう。

■ ごみってなんだろう？

そもそもごみって何だと思いますか？

例えば、汚れたもの。破れたり壊れたりしたもの。
古くなって使わなくなったものが挙げられますね。

ものは大切に使っても必ず役割を終える時がきて、その時ごみになります。図の右下にあるような、ホコリなど知らず知らずのうちにごみになるものもあります。ごみには色々なかたちがありますね。



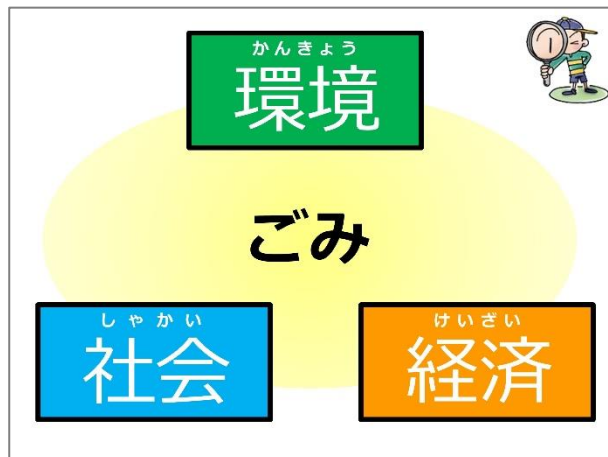
■ ごみがふえたらどうなるの？

ではごみがたくさん増えていくとどうなると思いますか？

ごみが増えていくと、燃やさなければならない量はどんどん増えますね。では、その先の埋め立てる量はどうなりますか？これも増えてしまいます。これだけで終わるのでしょうか？

■ ごみを考えることは？

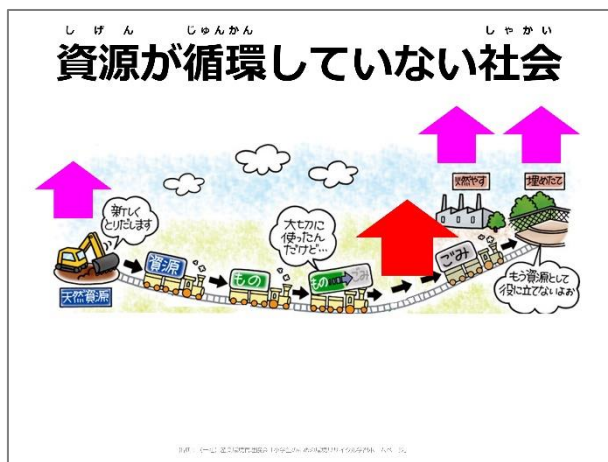
これまでのお話でごみから環境^{かんきょう}のことが見えてきました。お金がかかるという経済^{けいざい}のことも、そしてそれらに関係している社会^{しゃかい}のことが見えてきました。ごみの問題は単純^{たんじゆん}ではありませんが、「未来のごみ箱」を描いたみなさんは、すでに「環境」、「経済」、「社会」を考えてくれていますね。



ごみの問題はごみが悪いのではなく、「ごみと自然」、「ごみと環境」、「ごみと社会」とのつながり方に問題があるのがポイントです。そこに目を向けてみましょう。

■ ごみをへらすにはどうすればいいの？

ごみが増えたらへらせばいいと考えるかもしれませんが、どのようにしてへらせばよいのでしょうか。先ほどの絵に戻りましょう。資源が循環していない社会では、ごみが増えると燃やす量も増えて、埋め立てる量も増えて、ものを作る材料の量もどんどん増えてしまいましたね。



■ 資源が循環する社会

でも、次の絵を見てください。これだったらどうでしょう。青い線と緑の線が増えています。

「リサイクル」というのは、もう1回ものを作る材料に戻すことです。

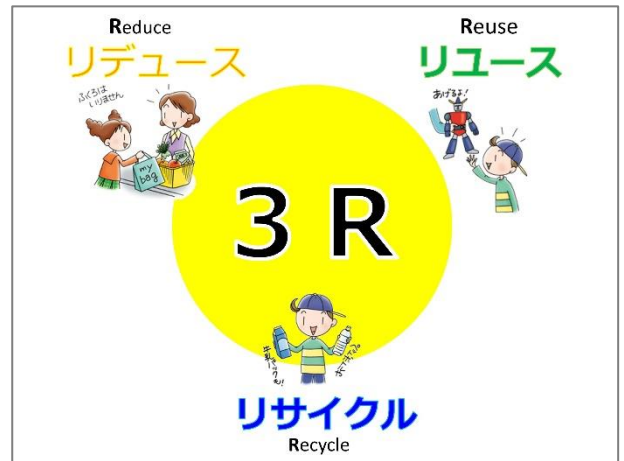
「リユース」というのは、使ったものをもう一度同じように使ってごみを減らすことです。このようにして資源を循環することでどんどんごみが減るといいですね。



先ほど、つながりと言いました。ごみにならない道にしてつながり方を変えることが大切です。それが燃やすごみの量も減らせるし、埋め立てる量も減らせることになります。さらに、使う資源の量も減らすことができます。

この取り組みを何というのでしょうか？

英語で「^{スリーアール}3 R」といいます。「3 R」をするということがとても大切です。



■ わたしたちにできる3 Rは？

それでは、みんながすぐにでもできる「3 R」とは何でしょうか。「3 R」を考えるクイズです。「リデュース」、「リユース」、「リサイクル」どれにあたるか分かりますか。

1. 「おもちゃを^{しゅうり}修理して使う」のは何でしょう？
2. 「おもちゃを友達と^{こうかん}交換する」のは？
3. それでは「無駄^{むだ}な買い物をしない」は？
4. おしまいに「ごみを^{ぶんべつ}分別する」ことは何でしょう？



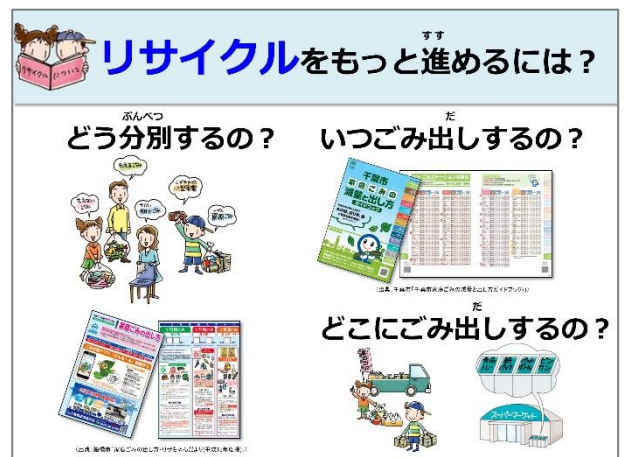
1. の答えは「リデュース」です。おもちゃを修理して使うことで、また別のおもちゃを買う必要がなくなるから、そもそもごみになるものをへらしていくという考え方です。

2. の答えは「リユース」です。

3. の答えは「リデュース」です。

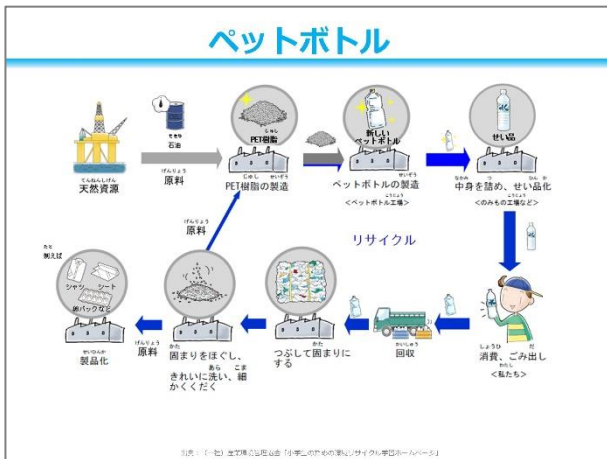
4. の答えは「リサイクル」です。ごみをもう一度資源に戻すということは、大人が工場で行っていることで皆さんにとって遠い感じがしますが、そもそも皆さんがきちんと分別してくれないと大人もリサイクルができません。皆さんがごみを分別して出すということはリサイクルに協力していることになります。

そのためにはきちんと分別してごみを捨てる^すことが大切ですし、いつ出せばよいか知っていますか？ それを知ることが大切です。



■ 大人はどんな3Rをしているの？

社会で行われている例を見ていきましょう。



【ペットボトルの例】

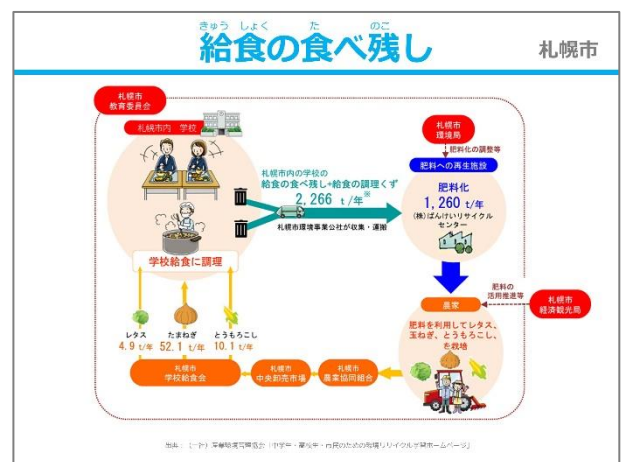
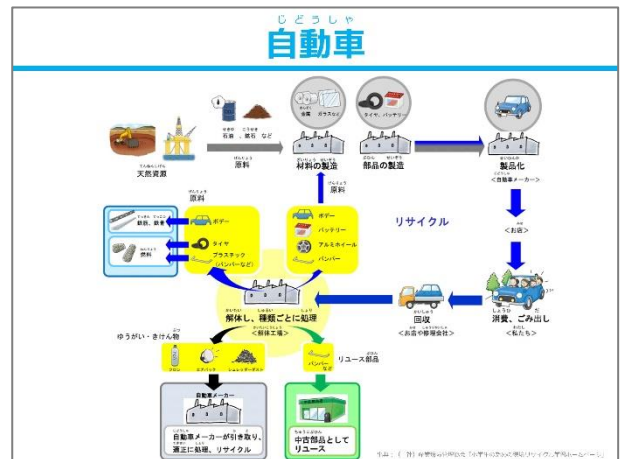
皆さんが使うペットボトルはこのイラストのようにクルクルとリサイクルのつながりを作る人がたくさんいます。

【自動車の例】

自動車もたくさんの部品ごとにリサイクルやリユースされて、色々なところにつながっています。

【給食の例】

札幌市では、学校の給食で残ったものがリサイクルセンターに運ばれて野菜を栽培するための肥料に生まれかわります。給食から出たものが給食に戻るというアイデアです。



■ さいごに

本日の表彰式を受賞スピーチで「ごみの問題を考えて積極的に行動していく人になりたい」という力強いコメントがありました。

私はごみの問題を考えて積極的に「3R」を推進するような団体で活動している人たちと毎日仕事をしています。できたら、みなさんと一緒に何かできるように、サポートしていきたいと思っていますので、皆さんもごみについて考え続けてください。今日はありがとうございました。

※参考資料：一般社団法人産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センターホームページ

「[小学生のための環境リサイクル学習ホームページ](#)」

みんなの3R作品というコーナーでは、多くのお友達のアイデアを公表しています。